

テーマ別パスファインダー



## アフリカ学入門



### ✧ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

作成日：2015年12月4日  
大阪大学 外国学図書館 | 箕面キャンパス |  
ラーニングコモンズ るくす | LSチーム

## I. イントロダクション

### ■ アフリカ学とは？

アフリカ学とは、アフリカに関するテーマを扱ったあらゆる学問のことです。つまり、学際的にアフリカを知る試みなら何でもアリです。これは、日本のアフリカ研究がまだまだ発展可能性に満ちていることを表しています。また、様々な分野の知識がジェネラルに求められるのもアフリカ学の特徴です。ここではいくつかの分野の入門書・必読書をご紹介します。アフリカ学では、まだまだ研究されていないことがたくさんあります。あなたも、世界の第一人者になりませんか？

関係分野：アフリカに関する考古学、歴史学、文学、言語学、社会学、人類学、政治学、経済学等。

## II. アフリカ学概説書

### ■ 船田クラセンさやか 編 (2010) 『アフリカ学入門—ポップカルチャーから政治経済まで』 明石書店

アフリカの歴史、言語、文化、政治、経済などアフリカ学を知る上で必要な基礎知識について概説する入門書。ここで好きなテーマを見つけて、分野別の文献を探してみては？【外国図-4 階開架 302.4||119】

### ■ 峯陽一、武内進一ほか 編著 (2010) 『アフリカから学ぶ』 有斐閣

アフリカを丸ごと感じ取れる入門書。「アフリカが好きな人は、アフリカを一方的に変えようとはしないし、アフリカを利用して自分だけが利益をあげようともしない。むしろ自分が出会ったアフリカとの関係を大切にしながら、アフリカ人に自分が感じた事を伝え、変化するアフリカに寄り添い、アフリカの経験から学び、自分の生き方を反省していくはずだ。」(序章より)【外国図-4 階開架 302.4||120】

## III. 言語学

### ■ 米田信子ほか (2011) 「アフリカ講座—アフリカの言語」『アフリカ研究』 日本アフリカ学会 78:43-60 (ISSN : 00654140)

アフリカには約 2000 もの言語があるとされています。アフリカ大陸の多様な言語状況について概説してくれる論文です。【外国図-雑誌】

### ■ 梶茂樹、砂野幸稔 編著 (2009) 『アフリカのことばと社会—多言語状況を生きるということ』 三元社

アフリカの言語について知るには、アフリカ大陸の多言語状況について理解しなければ始まりません。上記論文「アフリカ講座—アフリカの言語」で概要をつかんだらぜひ本書へ！【外国図-4 階開架 802||141】

### ■ 梶茂樹 (1993) 『アフリカをフィールドワークする』 大修館書店

アフリカの言語を調査するとはどういうことか、どのような苦労があるのか。言語学者の実体験をエッセイ調の文体で伝えてくれる本。【外国図-4 階開架 894.7||230】

## IV. 文学

■ 宮本正興（2009）『スワヒリ文学の風土—東アフリカ海岸地方の言語文化誌』第三書館  
東アフリカで発展してきたスワヒリ文学の概説書。【外国図-4 階開架 994.7||473】

■ サーダウィ, ナワル・エル（1988）『イヴの隠れた顔—アラブ世界の女たち』（村上真弓訳）未来社

エジプトで生まれ育った女性医師であり作家のサーダウィが、アラブ世界のジェンダーを分析し、告発した本。アフリカニスト以外にとっても必読書と言える示唆に富んだ一冊。【外国図-4 階開架 367.228||21】

## V. 歴史学

■ 宮本正興、松田素二 編（1997）『新書アフリカ史』講談社

古代から現代に至るまでのアフリカ大陸全土の歴史がなんと新書で読めます！アフリカ古代王国の歴史、そして、植民地経験から独立後の混乱までの歴史を概説してくれる一冊。【外国図-4 階新書 240||112】

■ トンプソン, レナード（1998）『南アフリカの歴史』（宮本正興ほか訳）明石書店

アフリカを知る上で欠かせないのが、人種差別との戦いの歴史です。長編ですが、平易な文体で南アフリカの植民地化とアパルトヘイトの歴史について書かれています。【外国図-4 階開架 248||55】

## VI. 人類学

■ 松田素二（1996）『都市を飼い慣らす—アフリカの都市人類学』河出書房新社

アフリカ都市人類学の第一人者である著者が、ケニアの首都ナイロビのダウンタウンで過ごした経験を基に都市人類学の視点からアフリカを捉えた一冊。【外国図-4 階開架 361.4||260】

■ 椎野若菜（2008）『結婚と死をめぐる女の民族誌—ケニア・ルオ社会の寡婦が男を選ぶとき』世界思想社

ケニアのルオ社会で夫を失った女性はどうのように生きるのか？結婚と性をテーマにルオ社会を見つめた民族誌。【外国図-4 階開架 382.4||50】

## VII. 経済学

■ モヨ, ダンビサ（2010）『援助じゃアフリカは発展しない』東洋経済新報社

世界銀行に勤めたアフリカ人女性エコノミストが、これまでのような援助を続けてもアフリカに経済発展をもたらすことはないという主張を展開する。【外国図-4 階開架 333.8||517】

■ 小川さやか (2011) 『都市を生きぬくための狡知—タンザニアの零細商人マチングの民族誌』  
世界思想社

分野は経済人類学ですが、インフォーマルセクターの労働状況を知らずしてアフリカの庶民の経済活動について理解することはできないため推薦します。【外国図-4 階開架 672. 4||8】

## VIII. 政治学

■ 米川正子 (2010) 『世界最悪の紛争「コンゴ」—平和以外に何でもある国』創成社

周辺の19カ国が関与し、「第一次アフリカ大戦」とも呼ばれたコンゴ東部紛争。その人道支援に UNHCR 現地所長として携わった著者の現地レポート。【外国図-4 階新書 302. 49||19】

■ 戸田真紀子 (2008) 『アフリカと政治—紛争と貧困とジェンダー』御茶の水書房

アフリカの紛争・貧困・ジェンダーについての入門書。【外国図-4 階開架 312. 4||80】

■ 阿部利洋 (2007) 『紛争後社会と向き合う—南アフリカ真実和解委員会』京都大学学術出版

南アフリカで行われた人種隔離政策、アパルトヘイト。本書は、体制終了後にその実態を公にし、和解を目指すために発足した「真実和解委員会」の取り組みを取材したもの。【外国図-4 階開架 316. 84||96】

## IX. 映像資料

■ ウスマン, センベーン (2004) 『母たちの村』

舞台は西アフリカのとある村。女性器切除をはじめとする抑圧的な慣習と闘う女性たちの姿を描く。数々の映画賞を受賞した作品【外国図-3 階 AV 資料 Man-0001】

■ ジョージ, テリー (2004) 『ホテル・ルワンダ』

1994年にルワンダで起きたジェノサイドを描いた実話に基づいた作品。劇中に登場するホテルは、今もルワンダの首都にあります。【外国図-3 階 AV 資料 E-1194】

■ アッテンボロー, リチャード (1987) 『遠い夜明け』

アパルトヘイト体制下で黒人の権利回復のために闘った活動家スティーヴ・ビコ。彼を追いかけ、南アフリカ政府を告発しようとした白人記者である主人公の視点からビコとアパルトヘイトを見つめた作品。【外国図-3 階 AV 資料 E-0495】

## X. 音声資料

■ クティ, フェラ (1972) 『ロフォロフォ・ファイト』

アフロ・ビートの創始者として世界的に有名なナイジェリア出身のミュージシャン、フェラ・クティ。彼の傑作ともいわれるこのアルバムを通してアフリカのビートを感じてください。他にもユッスー・ンドゥールやサリフ・ケイタといったアフリカ出身のミュージシャンが多彩な音楽を世界に発信しています。